

令和元年度 包括外部監査（中間報告）の概要

1 包括外部監査とは

外部監査人：川野 嘉久（公認会計士）、補助者4名

- (1) 地方公共団体の監査機能の専門性を強化するため、地方自治法に基づき、公認会計士等の資格を有する外部の専門家と契約して行う監査。
- (2) 監査対象となる財務事務の執行及び経営に係る事業の管理のうち、「地域住民の福祉の増進と地方公共団体の効率性」や「地方公共団体の組織・運営の合理化と規模の適正化」を達成するために、外部監査人が必要と認める特定のテーマについて、年1回以上の監査を行う。

2 令和元年度テーマと監査対象

<テーマ> 県民利用施設の管理運営に関する財務事務の執行について ～指定管理者施設を中心として～

<対 象> 13施設

① 大分県立総合文化センター	⑥ 大洲総合運動公園	⑪ 香々地青少年の家
② 大分県立美術館	⑦ 大分スポーツ公園	⑫ 九重青少年の家
③ 大分県立別府コンベンションセンター	⑧ ハーモニーパーク	⑬ 大分県立埋蔵文化財センター
④ 大分農業文化公園	⑨ 港湾環境整備施設（大分港西大分地区）	
⑤ 大分県都市農村交流研修館	⑩ 大分県立図書館	

3 主な着眼点

- ・施設目標・計画を適切に設定し、効率的に達成しているか
- ・施設課題を把握し、適切に対応しているか
- ・施設の長寿命化対策を適切に計画し、効果的に実施しているか
- ・指定管理者の能力や特性が生かされているか
- ・施設所管課室のモニタリング・対応は適切であるか
- ・指定管理者評価部会※の意見等について、適切に対応しているか（※：行財政改革推進委員会委員2名、外部有識者4名で構成）

4 主な監査所見（中間報告時点）

【全般的事項】

- 管理運営が県民ニーズや外部環境の変化に対応できていない。…【参考①②③】
- 指定管理者の能力や特性を十分に生かせていない。…【参考④】

▶ 上記事項は、所管課室が「施設の将来ビジョン」を示していないことに起因する。今後は所管課室が主体的に県民ニーズ及び外部環境（近隣施設状況、利用者数の将来推計等）の変化を把握し、将来コストも含めて検討した上で、施設の「存廃、整理統合、利活用策」を示すことが必要ではないか。…【参考⑤】

- 利用者アンケートが運営状況の改善に役立つ内容となっておらず、内容や収集方法を改善する必要がある。
- 指定管理者評価部会による評価の毎年度実施は、指定管理者等の業務に対する緊張感を高める効果があり、指定管理制度の維持及び向上に貢献している。

【個別的事項】

- ハーモニーパーク「指定管理のあり方の検討」が必要ではないか。…【参考⑥】
- 埋蔵文化財センター「施設転用例」の共有が必要ではないか。…【参考⑦】

参考①

全体的事項(1)

管理運営が県民ニーズや外部環境の変化に対応できていない

例：大分県立別府コンベンションセンター

◎ MICE施設が新增設され、競合が厳しくなる見込み。

<九州における主なMICE施設>



既存の主なMICE施設 (7施設)

建設・計画されている主なMICE施設 (5施設)

◎ 「テナント未入居の空きスペース(2017年7月～)」がある。



【利活用アイデア例】

- ・ 一般会議室
- ・ 多目的ルーム (イベント時の託児スペース)
- ・ アクティビティの事務所・受付・更衣室 等 (タワーに「観光アクティビティ」を導入する場合)

参考②

全体的事項(1)

管理運営が県民ニーズや外部環境の変化に対応できていない

例：大分県立別府コンベンションセンター

- ◎県民の気軽な利用を促す設備（例:カフェ・学習スペース、足湯等）の導入や企画（別府公園利用者呼び込む仕組み）検討も必要ではないか。
- ◎グローバルタワー及び空きスペースは、観光都市“別府”という立地を生かした利活用（例:ボルダリング、バンジージャンプ等の観光アクティビティ）も視野に入れるため、MICEを強みとする指定管理者のみならず、別府市や観光協会、大学等の外部機関も交えて、検討することが望ましい。

【考慮すべき点】

- ◎別府市構想（別府市図書館・美術館整備構想:下図）と連携し、機能が重複しないよう調整する必要がある。

グランドデザインの概念図



出典:別府市図書館・美術館整備構想(概要)平成31年 3月/別府市教育委員会

参考③

全体的事項(1)
管理運営が県民ニーズや外部環境の変化に対応できていない

例：大分農業文化公園・大分県都市農村交流研修館

- ◎施設全体が老朽化し、建物・遊具の安全対策が急務である。
- ◎交流研修館及び花昆虫館等は規模が大きく、また築20年を経過するため、維持管理・更新費の増加が見込まれる。



花昆虫館（天井部分の雨漏り）



花昆虫館（天井ガラスの飛散防止シート剥離）

- ◎メインターゲットである子育て世代のニーズに応えるため、サービスの見直しが必要ではないか。

【例:貸し自転車の配備状況】
「1人乗り(大人)」「2, 3人乗り(大人+幼児)」のみ



1人乗り自転車24型
350円 2時間



多くの小学生が乗れる自転車が
配備されていない



電動アシスト自転車
3人乗り
600円 2時間



参考④

全体的事項(2)
指定管理者の能力や特性を十分に生かせていない

例：大分県立別府コンベンションセンター

◎指定管理者は「収入の多角化（例：タワーの壁面広告等）」を望んでおり、所管課と指定管理者で検討すべきではないか。

▶現状、タワーの広告塔としての利用に関する利用料金等の規定がない。

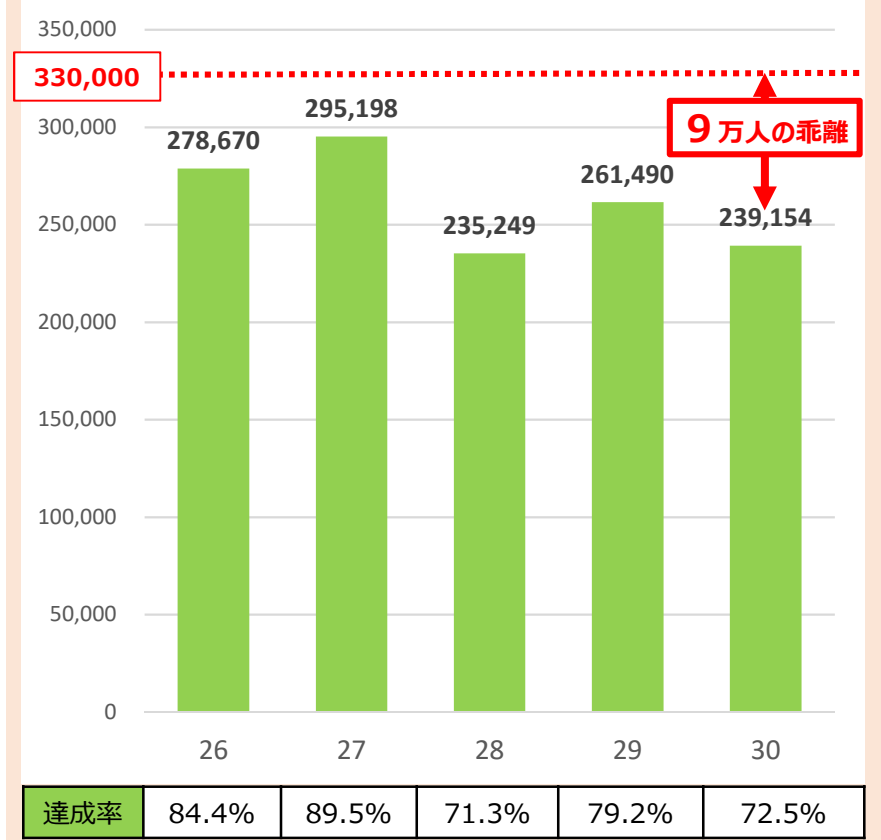


例：ラグビーW杯を機に、初めて設置された「壁面広告」

例：大分農業文化公園・大分県都市農村交流研修館

◎目標の年間来場者数（33万人）は、過去の最高値を参考に設定されているため、目標達成が容易ではない。

▶イベントや植栽の充実等の来場者対策は評価できるが、施設管理を強みとする「大分県農業農村振興公社」単体での目標達成は厳しい状況である。何らかの形で施設運営について、集客ノウハウを持つ企業・団体等を参画させることが望ましい。



施設の将来ビジョンのイメージ

＜施設所管課室が「施設の将来ビジョン」で示すべきこと＞

① 根拠※に基づいた「存廃、整理統合、利活用」の検討結果

② 長期間(10年以上)に渡る施設のあり方(目的、機能、規模)

(指定管理者は「指定期間・協定」の範囲で運営するのみであり、ビジョンは「施設所管課室」が示すべき)

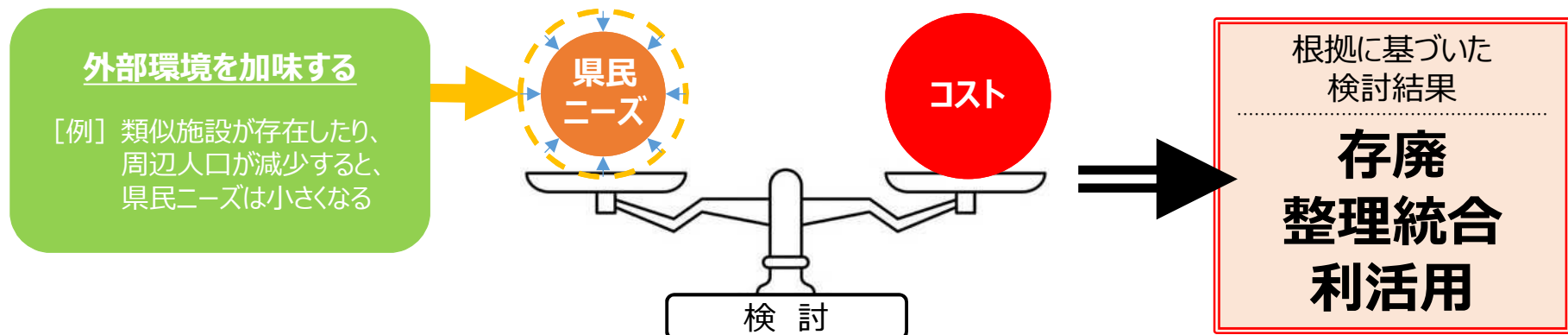
※:根拠

●現状把握(これまでの状況)

- ・ 県民ニーズ(利用者数、稼働率、利用者アンケート)
- ・ 外部環境(近隣類似施設の整備状況等)
- ・ コスト(運営コスト+維持管理・更新コスト)

●未来予測(これからの状況)

- ・ 県民ニーズ(利用者数の将来推計)
- ・ 外部環境(近隣類似施設の整備状況等)
- ・ コスト(運営コスト+維持管理・更新コストの試算)



参考⑥

個別的事項

指定管理のあり方の検討が必要ではないか

ハーモニーパーク

◎ 森林・竹林が広がる「実証展示林」は、隣接するハーモニーパークと管理や利活用のあり方が全く異なる。

▶ 実証展示林については、指定管理区域から除外して、「林産振興室所管の実証展示林」(指定管理区域外)との一体管理に移行すべきである。



参考⑦

個別的事項
施設転用例の共有が必要ではないか

大分県立埋蔵文化財センター〔施設跡地（旧大分県立芸術会館）を転用し、29年4月に移転〕

- ◎施設転用の成功例として評価できる。
 - ▶今後の施設転用の参考とするため、「検討プロセス及び結果」を総括し、共有すべきではないか。

◎施設特性（天井の高い音楽ホール等）を生かした改装により、推計20年分の埋蔵文化財に相当する収蔵容量を確保した。

【「旧音楽ホール」を「整理収蔵棟 収蔵庫」に改装】



◎移転前と比較して、来館者数が10倍に増加した。

